市民が講師になって みんなで学ぶ【まちびとゼミ】

福知山踊りを習って踊る（2019.7.31）

市民の方々が講師となって学生や市民と一緒に学んで交流する場が「まちびとゼミ」です。

ドッコイセまつり間近の７月末、福知山が誇る郷土芸能、**明智光秀ゆかりの「福知山音頭と踊り」**の歴史や魅力を学び、踊りを体験しました。明智光秀と言えば広小路商店街理事長の吉田博さん、熱い熱い語りでした。そして踊りは若者に人気のゲタ踊り。福知山ゲタ踊振興会のご指導で踊りました。子どもから学生、大人まで一緒にゲタを鳴らす賑やかなまちびとゼミになりました。

秋には、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながらタスキをつなぐ全国リレー「**RUN 伴 2019**」の福知山開催を前に、「**認知症と地域社会**」をテーマに開きました。福知山で「RUN 伴」や認知症の活動に取り組む方々を講師に、認知症や RUN 伴の活動について学び、交流しました。RUN 伴にランナーとして参加する公立大学生が 10 数名参加し地域の人々と認知症について学びました。

市民と学生、大学教職員が共に学び育て合う場をつくろう！「まちびとゼミ」では、講師を募っています。

市民学習・キャリア支援センター長
まちかどキャンパス専門委員会
委員長　谷口 知弘

認知症について話し合う学生と市民（2019.10.17）

吹風舎通信 第二号
ふくちやまペーパー

福知山公立大学
まちかどキャンパス吹風舎
住所：福知山市上新７番
電話：0773-45-3087
Email：machikado@fukuchiyama.ac.jp
発行人：谷口　知弘
発行日：2019 年 11 月 20 日

今日の地域の人

今回は、丹波生活衣館に設立当初から関わる四方美代子さんからお話を伺いました。

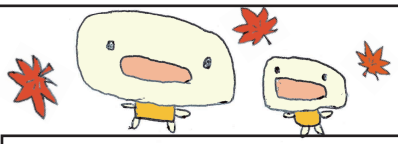
四方さんは、福知山市出身の大正 12 年生まれで、平成８年から丹波生活衣館の設立に関わられてきました。

生活衣館設立に関わるようになったきっかけは、「明治時代から大正時代の農村の文化を次世代に守り伝えたい」と願い、丹波地域の生活衣を収集していた知人の思いに賛同し、生活衣展示の手伝いをしたことだったと言います。

生活衣館設立のために人脈をつくり、400 人分の署名を集めるなど設立には多くの苦労があったそうです。設立後も、生活衣についての本の執筆者の一人として関わり、多くの人に生活衣の文化を伝える活動をされてきました。

お話するなかで、四方さんは、「現代では、衣服を作る過程を日常で行うことはほとんどなくなり、昔から着られていた着物を作る裁縫の技術がなくなってしまう」とおっしゃっていました。そのような状況の中で、どのような大学生活を送ってほしいかという質問に対し、子供やお年寄りと話をして視野を広げたり、昔ながらの文化を自分自身で体験してほしい、という意見をいただきました。

インタビューをしていて、四方さんの日常にあるささやかな物に関心を持つ姿勢は、若い世代に大切な姿勢だと感じました。
（１年：坂野井利緒）



今日の学生さん

今回紹介する学生さんは１回生の本田湧大（ほんだゆうだい）君です。出身は福島県の福島市です。

小学３年生からボーイスカウトを行っていて、高校生になると小学生や中学生を教育する立場にあったそうです。その子供に教えるといったスキルを、今、学生企画チーム DOKKO のふく子屋で応用し頑張っています。

また、誰かの頑張っている所や輝いているところを発信する事がカッコいいという思いから、広報部で活動しています。

そんな彼の何よりの強みは誰よりもメモをとることです。メモを取りながら話を聞くことで、頭の中で整理し論理的に自分の中にインプットしているそうです。将来は色んな分野の方から話を聞き、知見を広めたいそうです。とても、勉強熱心ですね。彼の経験やコミュニケーション能力には学ぶべき事がたくさんありそうです。

（１年：山崎愛悟）

fm学生探偵企画
『探偵のおひるやすみ』始まりました!!!

皆様こんにちは。私たちは福知山公立大学、学生プロジェクトチーム「ｆｍ学生探偵」です。私たちは自らの手でラジオ番組を制作し、発信するという活動を行っています。ラジオと聞くと古いイメージが定着していると思いますが、私たちは幅広い年齢層に聴いてもらうことができ、番組の制作・発信側と聞く人との距離が近い点がメリットだと思っています。私たちはそんなラジオの可能性を信じ、大学の基本情報をはじめ、学生が大学で学習したことを活かし、地域のために地域の方々と一緒にやりたいと思っていること等を発信し、大学生と地域の方々とを繋げる役割を果たす番組制作を目指しています。実は先日そのラジオ番組の企画会議をこの吹風舎でやらせて頂きました。また現在はFMいかるという綾部のスタジオで収録をしていますが、ここだけの話来年頃からこの吹風舎での収録を考えています。吹風舎は非常にアットホームな雰囲気で誰でも利用できるという点が素敵だと思っています。なので皆様もぜひ利用して頂きたいなと思っていますし、私たちの収録もぜひ見に来てほしいなと思っています。

最後に私たち「ｆｍ学生探偵」はFMいかる（86.3Hz）にて毎月第1,3,5土曜日12：30～13：00に「探偵のおひるやすみ」という番組を放送しています。ぜひお聴きください。

（1年：成瀬花音）

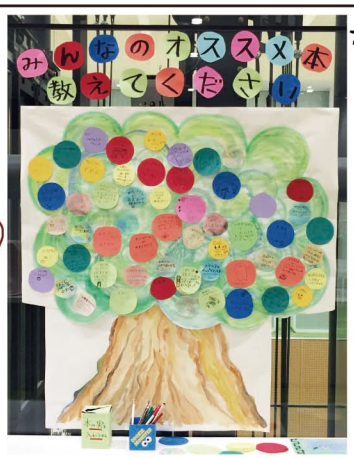
「RUN伴」に参加しました!!

今回RUN伴に参加することで認知症への知識が身につき、認知症に対する見方が変わりました。また、学生企画チームDOKKOメンバーや初めて会う方々と長距離を走る中で達成感や楽しさを味わうことが出来ました。８月末にRUN伴の参加が決まったときは、半年以上運動をしていなかったため最後まで走りきれるかとても不安でした。そこで、一緒にRUN伴に参加するメンバーと本番のコースを走ることで不安を解消し、団結力を深められたのではないかと思います。みんなで走ると辛さや孤独感が無くなり、１人で走るときより何倍も楽しく走ることが出来ました。RUN伴の２日前のまちびとゼミでは認知症に関して少し教えて頂くことが出来ました。そこでは認知症がどんなものか、認知症の人にはどのように対応すれば良いのか、なぜRUN伴ができたのかなどを聞くことが出来ました。聞いた話の中で私が知らなかったことや誤解していたことがあり、とても勉強になりました。そして、自分の家族がもし認知症になったら…と考えさせられる場面もありました。RUN伴を通して得た知識を、地元に帰ったときに家族に話したいと思います。今回RUN伴に参加しなかったら出会うことが出来なかった方々と話したことや、RUN伴に参加することで出来た経験を糧にこれからも地域と関わりながら頑張っていきます。

（1年：久保あずさ）

まちライブラリー 福々BOOKSのできごと

10月19日～11月9日



まちライブラリー「福々BOOKS」では、読書の秋、読書週間に合わせて、まちなかを歩きながら本と触れ合う催し、「本のよみめぐりさんぽ」を行いました。図書館や美術館、まちなかのお店等に声をかけ、そのお店に合ったイベントや、テーマを決めた本棚を作っていただき、いろんな人が入りやすくなる工夫をそれぞれのお店に行なっていただきました。

各お店では本の実と称して、来店いただいた方に、自分の好きな本や思い出に残っている本を紙に書いていただき、それを集めて図書館と吹風舎に掲示しました。沢山の方に協力いただき、木がいっぱいになるほどの本の実が集まりました。

今後も本に触れるきっかけとなるイベント作りが沢山できたらいいなと思います。

（コーディネーター：松井）

本の交流会　10月19日

今回は、テーマを「本屋大賞」にして本の交流会を行いました。サポーターの大学生が、過去の受賞作をまとめたプリントを作成してくれたのですが、それがとても役にたちました。

過去の本屋大賞は、ドラマや映画化されたものが多く、本を読んだことのある人もない人も、それぞれに思い入れの強い話をしていただきました。

ー さぃきんのことー

８月９月には学生たちが大学のお休みに合わせ帰省したり旅行に出かけたりと寂しい吹風舎でしたが、秋風が吹き始めるとお土産話を持った学生たちが帰ってきてました。

最近は、芸術の秋というわけではありませんが、俳句の会、川柳の会など勉強をする方や絵を描く小学生など、文化を楽しむ方が多く来てくださっています。みんなと共有できる好きなものを持てるのは素敵ですね。

（職員：塩見）